



やまゆり

学校だより

令和5年1月23日
79号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行する一
校内研究主題 「WEBQUを活用し学級の安定と活性化を図る」

学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級づくり」・「豊かな心の育成」

生徒会役員3名が、全国いじめ問題子供サミットに参加しました

1月21日(土)に文部科学省の講堂3階で行われた「全国いじめ問題子供サミット」に参加しました。北海道から沖縄県の中学生が約120名、引率教員・教育委員会担当・指導主事等が約80名参加しました。コロナ禍の影響で、対面では3年ぶりの開催でした。

本校から参加した生徒会長の加藤景己さん、副会長の山本千莉さん、加藤輝さんの3名は、本校のいじめ防止の「自助・共助・公助」の取り組みを、3回に渡って精一杯表現しました。

また、他校の実践を一人3回聞くことが出来たので、個別に発表を聞き参考になる情報を収集することができました。

午後からは、中学時代にいじめられて辛い思いをした吉本興業所属のライセンスの「藤原一裕」さんの講演を聞きました。その後、「いじめ防止に関わるグループ協議」を約1時間しました。さらに、グループごとに「いじめ防止宣言」を40分考えて各グループごとに発表しました。

参加した3名も、引率した笠田先生、杉本もとても刺激的で学びの多いサミットでした。

- 参加した3名の生徒会役員の思いを伝える表現力は、他校の先生方から高く評価していただきました。「小規模校の生徒の表現力は低いのが当たり前と思っていたが、その思いを良い意味で覆してくれた。素晴らしい発表だった」と高知県の校長先生が話して下さいました。話し合いを数多く経験し生徒も「日常的な慣れが自信になっている」と言っていました。
- 発表内容は本校独自のいじめ防止活動で、他校に例がない発表内容でした。いじめの定義から、「いじめをゼロにはできない」ことを根本に、災害から身を守るための自助・共助・公助等の取り組み内容の発表です。「いじめゼロ」を標語としている学校も多くあり、参加した他校の生徒や引率の先生方からも「参考にしたい」という声を数多く頂きました。
- 他校の生徒や先生方に質問していただいたお陰で、「自校の発表をさらに充実、発展させて行かなくてはいけない」と杉本も気づかされました。例えば、「平和集会」について目的や内容等について、さらなる充実を考える必要があると思いました。

平和集会への質問 (沖縄県の中学生)

- ・ 沖縄では6月23日に毎年「平和集会」を各校で実践している。道志中ではどのような内容の平和集会をしているのか。他県のことをよく知らないので教えて欲しい。

本校生徒の答え

- ・ 悲惨さを学ぶ平和集会ではなく、「身近な平和を創る」平和集会をしている。小学校と中学校で連携して、各クラスで発達段階や学級の状態に応じた目標を立て、各学級で学級役員を中心に取り組む集会をしている。※本校の広島への修学旅行の目的です。

沖縄の中学生

- ・ 自分たちで「身近な平和を創る実践をする」ということを聞いたことがなかった。先生に伝えて、是非取り入れたいと思います。

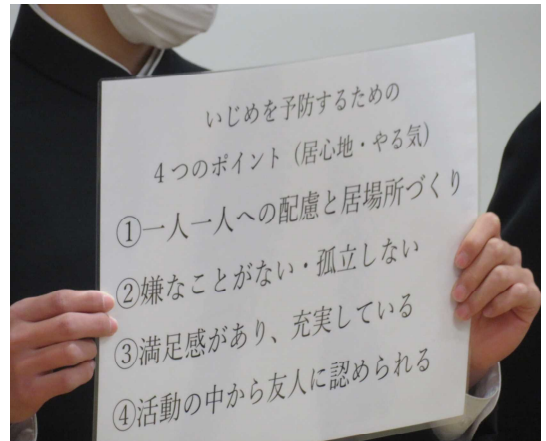
沖縄の中学生の質問で杉本が気づいたこと

- ・ 「平和集会の趣旨に沿って、各学級の目標に対してどのように取り組み、どのように改善されたのか。今後はどうしていくべきか」等を継続的に取り組む必要があると思った。
- 各県の代表の生徒は、いじめ問題や協議する内容への主体性がとても高いことに驚きました。また、120名の話し合いの司会者募集にも30名から40名程度の生徒が積極的に応募していました。「来週受験がある」と話していた宮崎県の3年生は、「いじめの内容は人の命に関わる問題なので、先生に頼んで参加した」と答えていました。さらに、話し合いの内容も他校の生徒への配慮も、中学生としてはトップクラスだと思いました。
- 参加校の多くは、県指定・市指定の学校でした。しかし、本校はいじめや人権教育を中心とした指定は受けていません。しかし、「全校30名の小規模校だからこそいじめの問題は大規模校より深刻になる可能性が高い」と考えて取り組んでいます。
県や政令指定都市等の組織的な取り組みにより参加した学校が多い中で、主体的に参加している学校は少ないことが分かりました。
- 村立の学校で参加したのは、全国で本校のみでした。全校生徒30名に驚く生徒が多く「3名来ているということは、全校の1割ですか？」と質問する生徒もいました。

1月20日(金)に全校生徒に発表しました



3名の発表を聞く全校生徒の様子



発表後に、多くの生徒が「勇気」を出して感想を伝えてくれました。

「意味ある内容」を「表現する」力の向上は、とても重要です。



表現する意味
表現する方法

「生活や目的に対して、より良い情報を発信して貢献する」意識を強く持ちたい。
①「原稿を読まないで相手に伝える」②「何を伝えたいのか絞る」③説明の工夫

全国いじめ問題子供サミットの紹介

※ 引率者は写真撮影OKでした。

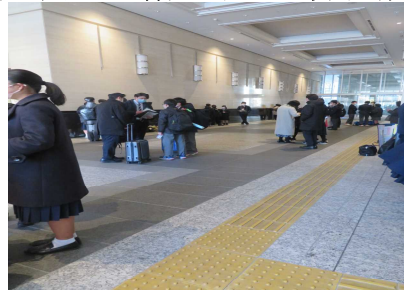
朝6:15 道志中出発 新宿から丸ノ内線 霞ヶ関駅まで いじめ防止に立ち向かう後姿



財務省前の3人

文部科学省前の3人

開場前に1階通路で30分待機



景己さん・千莉さん等を含むグループ写真

輝さんを含むグループ写真(サミット終了後)



引率者(後)から見た会場全体の様子

岡山県の玉野市立山田中学校の発表



いじめについて知る・考える・止める活動



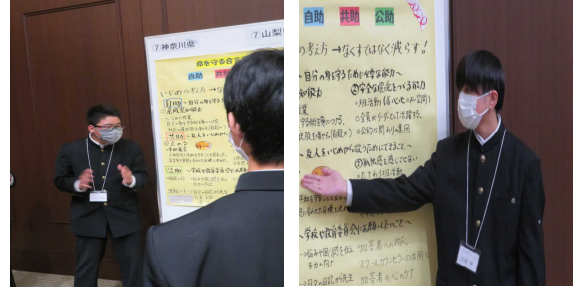
発表前 大きな声で集客活動



1回目の発表の様子



「原稿を見ずに思いを伝える発表」



積極的に聞き、どんどん質問してくる他校生 ↓大阪の小学生 終わってからも質問する他校生



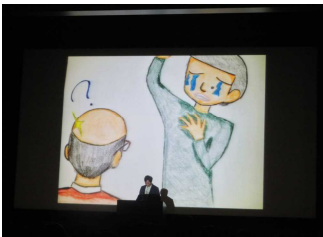
120名の全体司会に大勢の生徒が参加希望



いじめ体験 逃げろ。でも自分の人生に負けない



本を寄贈して頂きました



他校生とグループ協議の様子



藤原さんが輝さんの班に



6名中4名が女子の生徒会長の班



小学生の純粋さと能力に驚愕



一人で発表する景己さん



○左の写真は帰宅前に大月駅でご飯を食べている様子です。帰りに予定より1本早い特急電車に乗ると、何と同じ車両に「メヒア」先生が乗車していました。本当に驚きました。

○参加した生徒会役員の名や笠田先生が学んだことは、次号で紹介。

○道志村教育委員会・義務教育課にお世話になりました。